



鶏鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『清くなれ』

聖書(マルコ福音書1章41節)

牧師 河合裕志

ある時、重い皮膚病を患っている人がイエスのところに来てひざまずいて願い、「み心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と言った。

重い皮膚病、これは前の口語訳ではらい病と訳していた。らい病は今日ではノルウェー人のハンセンがらい菌を発見したことからハンセン病と言われている。らい菌の感染により皮膚と末梢神経が侵される病気。今日では治療可能の病気だけれど昔は不治の病いとされ恐れられた。遺伝するとも信じられていた。それでひと度らい病になると強制的に隔離されらい療養所に送られた。この処置は1996年に「らい予防法」が廃止されるまで続いた。

イエスのいた頃、らい病患者に対する扱いはかつての日本におけるようだった。伝染が恐れられ人里離れた所に住まねばならなかった。映画「ベン・ハー」ではベン・ハーの母と姉がこの病気になって洞窟で暮らしている様子が描かれていた。更にこの病人を深く悲しませたのは宗教的意味合い。この人は神より罰を受けた汚れた者だと見なされた。

そんな一人が今イエスのところに来た。人中に来ることは禁じられていたけれどもイエスのことを聞きつけて是非ともいやし

て欲しいと願い出た。

彼がこの種の病いであることはその裂かれた衣服、ほどいた髪の格好から一目瞭然。顔も鼻が欠けたりして変形していたかも。人々は思わず身を引いた。

しかしイエスは身を引かなかった。「深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ、『よろしい。清くなれ』と言われると、たちまち重い皮膚病は去り、その人は清くなった」。らい病人に手を触れるなんてとんでもないこと。伝染するじゃない、汚れが移るじゃない。しかしイエスは平気だった。かえってイエスの手を通して清める力、いやす力が電流のようにこの人に流れた。するとたちどころにこの人はなおってしまった。

イエスの人をわけへだてしない愛を思う。そしてイエスの内より出て来るいやす力の大きさを思う。私達は今日病気になったら医師にかかる。その際合わせてイエスにもいやしを願ったらどうだろう。

私達は今日ハンセン病でないかもしれない。しかし心は結構憎しみの思いでただれていたりする。そんな時イエスに願ってみたらどうだろう。よろしい、清くなれ、と言って手を伸べていやしてくれるかも。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時